

医工学研究科 教育研究支援基金

東北大学特定基金へのご協力をお願い

東北大学医工学研究科は
先進的医療技術や医療機器を創出し、国際展開できる
イノベーション人材を育成しています。

Graduate School of
Biomedical
Engineering

東北大学基金

東北大学大学院医工学研究科は、機械・電気・材料工学等の基盤技術を医学・生物学に応用する工学系研究者と、臨床医学・歯学あるいは生命科学における課題を工学的手法で解決しようとする医学系研究者が集結し、医工学に特化した日本初の独立大学院研究科として 2008 年 4 月 1 日に発足いたしました。それ以来、国際水準の医工学研究を推進し、これを通して学生に基盤的・先進的知識と技術を習得させ、世界を先導できる研究者、高度技術者を育成し、学術的基盤の革新および医療の根本的改革を通して人類社会の福祉と発展に貢献することを理念とし、研究教育活動を行って参りました。

設立から 15 年目を迎え、初期の修了生がすでに公的機関や民間企業で中核的役割を果たしつつあることを大変頼もしく感じるとともに、この間ご支援いただきました方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。近年では東北大学工学部機械知能・航空工学科および電気情報物理工学科のそれぞれに医工学を冠したコースが設置され志望者も増加したため、10 周年を迎えた 2018 年に博士課程前期 2 年の課程・後期 3 年の課程ともに定員を増やしました。基礎医工学、応用医工学、医療機器創生の 3 コースの教育体制をとっており、医学・工学の基礎の教育をはじめ、医療機器開発、コーチング、ビジネス、レギュラトリーサイエンス（法規・規制）など医工学研究科独自の実践的な教育も行っております。また、学生が探索した臨床的課題を解決するための医療機器プロトタイプを開発し、欧米の大学でプロモーション活動を行う医療機器創生国際インターンシップによるグローバル人材育成も進めております。さらに、ジャパンバイオデザインに代表される医工連携アントレプレナー教育や、EMBEE（技術者のための医学・医工学教育）という社会人対象の教育プログラムも開始し、社会に開かれた医工学教育についても順調に成果を上げてきております。

医工学の発展は、私たち国民が健康で豊かな生活を送るために求められている技術課題を解決するために必要不可欠です。私たちはこれからの超高齢社会に向け、長期的な視野にたった教育・研究を安定的に実行し、次世代の研究者の育成を強力に推進いたします。「医工学研究科 教育研究支援基金」の趣旨をご理解いただくとともに、ぜひとも皆様方のサポートを賜りたく、ここにお願い申し上げます。

2022 年 4 月

東北大学大学院医工学研究科長
西條 芳文



東北大学は、開学以来の「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基に、数々の教育研究の成果を挙げてきました。医工学研究科も「研究第一主義」の伝統を引き継ぎ、世界トップレベルでしかもオリジナリティの高い研究成果を挙げていることは各種指標で明らかにされています。研究のための経費は主に競争的資金によって賄われますが、医工学研究科の教員はたゆまない努力により大型研究費を獲得してきており、研究に関しては豊かな環境にあることを自負しております。本基金により世界的に著名な研究者を招へいし、あるいは国際シンポジウム・ワークショップを開催することで、医工学研究科の世界的プレゼンスをさらに高めていきます。

「門戸開放」は帝国大学で初めて女子学生が入学した東北大学の歴史に始まりますが、現在では外国人研究者・留学生を東北大学に引き込むとともに、東北大学の学生を海外に派遣し国際性豊かな人材を育成するとともに諸外国と深く連携できる関係に発展させることが「門戸開放」であると考えています。海外における学生の研究成果の発表や留学・インターンシップについては、研究費の支給ルールに抵触する場合もあり、やや制限されているのが実情です。したがって、学生の優れた研究成果の発表等のための海外派遣に対して医工学研究科として旅費の補助を行うことに、本基金を活用していきたいと考えています。

東北大学における医工連携の歴史は、まさに「実学尊重」の歴史とも言えます。医学教育において医学生に心音や呼吸音を同時に聴かせるために大正年代に開発されたマグノスコープ（電子聴診器）や、体内の心臓の動きを直接観察するために1960年代に開発された超音波心臓断層図は、ともに臨床のニーズを解決するために工学技術を注入した実用研究です。医工学研究科では、このような「実学尊重」の伝統を21世紀に継承して、学生自らのアイデアを重視した医療機器開発を行っています。医工学研究科の実習としての「医療機器開発実習」とどまらず、実習終了後も学生が学位取得のための研究とは別にプロジェクトを継続することもあります。このような学生の活動に対して、これまで医工学研究科の各研究室は、“子供の夏休みの宿題を手伝う親”の心境で必要な物品や装置を提供してきました。しかし、各研究室の研究に直結しない物品は、医工学研究科が別途購入する必要がありました。自主的なプロジェクトによる学生の豊かな発想を伸ばし、さらに産学連携により革新的医療機器を開発するためにも本基金を活用していきたいと考えています。

超高齢化社会の到来に向けて、健康で豊かな生活を送るためには何が必要か、また解決すべき技術課題は何か、医工学研究科は常にその答えを導こうと日夜努力しています。本基金により医工学研究科にご援助いただくことは、人類の健康に貢献することです。皆様のご助力を強く願います次第です。



日本初の医工学に特化した大学院研究科として、世界的プレゼンスを向上させ、医工連携エコシステムを創生するとともに、学生の自由な発想に基づく革新的医療機器の開発など、世界トップレベルの医工学研究拠点形成を目的とした様々な事業を推進していきます。

① 医工学の学術的発展

医工学に関わる著名研究者の招へい
医工学領域におけるシンポジウム・ワークショップの開催

② 学生の海外派遣

学生の国際学会、インターンシップへの支援

③ 学生の自由な発想に基づく革新的医療機器の開発

学生医療機器開発プロジェクトへの支援
産学連携による革新的医療機器の創生

概要

名称 医工学研究科 教育研究支援基金
寄附額 一口 1,000 円（本基金の趣旨をご理解いただき、できるだけ複数口のご協力をお願いいたします）
募集期間 2018 年度より募集を開始し、永続的な事業として実施いたします。

ご寄附の方法〔税制上の優遇措置〕

●個人としてお申込みをいただく場合

クレジットカード、銀行振込、コンビニ決済、郵便振替からお選びいただけます。

東北大学基金ウェブサイトからお申込みください。

東北大学基金 <https://www.kikin.tohoku.ac.jp>

〔税制上の優遇措置〕 税務署に確定申告をしていただくことにより、税制上の優遇措置を受けることができます。

●法人としてお申込みをいただく場合

お申込書をお送りいたしますので、東北大学基金事務局までご連絡ください。

〔税制上の優遇措置〕 寄附金額全額を損金に算入することができます。

感謝の気持ちを込めて

●芳名の掲載

ご芳名を「東北大学基金ホームページ」に掲載いたします。

（ご希望の方のみ）

●下記の中から好きなものを1つお選びいただけます。

①東北大学オリジナルブレンドコーヒー“THANKS BLEND”

②北限のお茶“kitaha”東北大学オリジナルデザイン ver.

③東北大学オリジナル栞“Hagi”

| 種別 | 個人 | 法人・団体 |
|-------|-----------|-----------|
| 荣誉功労賞 | 3,000万円以上 | 1億円以上 |
| 特別功労賞 | 1,000万円以上 | 5,000万円以上 |
| 功労賞 | 100万円以上 | 1,000万円以上 |
| 特別功績賞 | 50万円以上 | 500万円以上 |
| 功績賞 | 10万円以上 | 100万円以上 |

●賞および記念プレートの贈呈

ご寄附の総額に応じて賞を贈呈させていただきます。

●功績賞以上の賞を受けられた寄附者さまへの特典

①寄附者顕彰銘板への芳名の掲載

東北大学片平キャンパス内エクステンション教育研究棟に設置している「東北大学基金寄附者顕彰銘板」に掲載させていただきます。

②「感謝のつどい」へのご招待

総長をはじめとした本学関係者との交流・意見交換を目的とした「東北大学基金感謝のつどい」へご招待いたします。

③東北大学萩友会プレミアム会員としての特典

広報誌の送付、大学主催のイベントへご招待いたします。

事業全般に関するお問い合わせ

東北大学大学院医工学研究科事務室総務係

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6

TEL: 022-795-7491

Email: bme-syom@grp.tohoku.ac.jp

<https://www.bme.tohoku.ac.jp>

寄附の方法・特典などに関するお問い合わせ

東北大学基金事務局（東北大学総務企画部基金・校友事業室内）

〒980-8577 仙台市青葉区片平 2-1-1

TEL: 022-217-5058 / 022-217-5905

Email: kikin@grp.tohoku.ac.jp

<https://www.kikin.tohoku.ac.jp>